

友好提携10周年を迎えて、第8回広島フードフェスティバルが開催されました

広島県とグアナフアト州が2014年に友好提携を締結して、今年10周年を迎えました。

開催8回目を迎えた広島フードフェスティバルは、友好提携1周年を記念するイベントとして第1回が開催されて以降、コロナ禍を経て、継続開催され、今回に至っています。

広島県とグアナフアト州の交流を深め、その発展に大きく貢献してきたイベントの一つです。



今回、広島から派遣されたシェフは、昨年が続いて広島旨い物処“稲茶”の主人 下原一晃氏、かき船“かなわ”総料理長 戸田 豊氏の広島和食料理界を代表する二人であり、それぞれが考案した四品の料理とメキシコ産まぐろの握り寿司、メキシコ人シェフによるお好み焼きが振る舞われました。

第1回開催より調理場、シェフ・スタッフから開催会場の手配・提供まですべてのサポートをいただいているフェリペ氏率いるFYNSOグループの協力の下、10月14日（月）から3日間、仕込み作業を行った後、10月17日（木）レオン会場、18日（金）イラブアト会場、19日（土）サラマンカ会場において第8回広島フードフェスティバルが開催されました。

そして、翌日、20日（日）に開催された友好提携10周年記念としての広島県からの湯崎知事、中本県議会議長をはじめとする各訪問団ならびに当親善協会訪問団を歓迎するレセプションにおいても、広島フードフェスティバルと同様の料理が振る舞われ、4日間4会場合わせて各種料理600食が提供されました。



食材の確認をするシェフとスタッフ



仕込み作業を行うシェフとスタッフ

いずれの会場も大盛況のうちに、終えることができました。

今後も、両県州の友好を盛り上げ、更なる発展に繋げていくために、この広島フードフェスティバルが継続開催されますよう当親善協会もこれまで以上に活動し、協力して参ります。

